



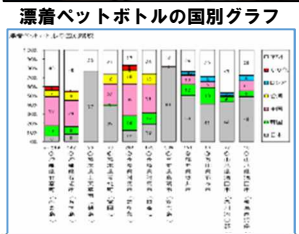



プログラム名	
水の地球循環 ～川から海へ流れるごみを考える～	
プログラムの概要・ねらい	
身近な「水の循環」についての理解を深める (1)地球は水の惑星。(2)地球の水は人間には少ししか利用できない。(3)利用できる水は公平でない。(4)日本は水の輸入国。(5)水は地球上を循環している。(6)山や町のゴミは、川から海に流れていく。(7)ふりかえりでは、町・道路などのゴミを無くし、きれいな街にすることで、川・海も綺麗になる、私たちも住みよい町、地球になることを理解してもらう。	
プログラムの分野	
<input type="checkbox"/> 地球温暖化防止・エネルギー <input checked="" type="checkbox"/> ごみ・3R <input type="checkbox"/> 自然 <input type="checkbox"/> 生き物 <input type="checkbox"/> 大気 <input checked="" type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> その他	
プログラムの対象者	
<input type="checkbox"/> 幼稚園等(<input type="checkbox"/> 3歳児 <input type="checkbox"/> 4歳児 <input type="checkbox"/> 5歳児) <input checked="" type="checkbox"/> 小学校1,2年 <input checked="" type="checkbox"/> 小学校3,4年 <input checked="" type="checkbox"/> 小学校5,6年 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 特別支援学校(<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱)	
対象人数(1回に実施可能な人数)	
～40人程度(20人程度であれば講師1人+補助で対応、以上の場合は講師が複数名必要)	
実施場所	所要時間
体育館、教室、多目的室	目安 ①～④までで2校時程度 ※各学年対象により説明内容を変更します。 事前に打ち合わせして内容レベルを決定する。
プログラムの実施に必要な準備物	
学校、園で準備が必要なもの	水、黒板またはホワイトボード、クレヨン他、ぞうきん、新聞紙、プロジェクター又はディスプレイ、電源、机など (実施内容により変更あり、プロジェクターあれば可)
団場で準備するもの	サイコロ、記載用紙、地球儀、パソコン、必要の場合プロジェクター、説明用大判用紙、その他用具
プログラム実施に伴う安全上の注意事項、リスクの対処法 ※雨天時の対応など	
<ul style="list-style-type: none"> ・水の旅アクティビティーは、移動してシールなどを集める為、転倒などのリスクあり(可能性小) →スタッフなどが注意しつつ実施(「走らないで」等で注意する) ・基本的に室内で実施であり、雨天時は問題無い 	

【プログラムの進め方】

	学習内容・活動	写真
導入	<p>【導入】</p> <p>「青い地球」アイスブレイクから、導入、自己紹介にて緊張ほぐしながら、地球儀(ビニール製)による「海・陸の対比クイズ」、地球は水の惑星であると理解。</p>	
展開	<p>【展開】</p> <p>① 「大海の一滴」</p> <p>1リットルの水から人間が利用可能な水(1滴)を実験しつつ、体感してもらい、水資源の大切さを深める。</p> <p>② 世界と日本とは、水の利用が違う。日本は水資源の大量輸入国であることの図・表による説明(時間によって実施)</p> <p>③ 「驚異の旅」</p> <p>生徒自身が水に変身して地球を旅する。サイコロを振り、地球上の水の場所を旅する。各自が水になって旅をしたことを発表する。水は、地球を大循環していること、体験を通じて理解する。</p>	 
確認	<p>④ 「ちりも積もれば」</p> <p>参加者をグループごとに分け、川沿いの土地があったら、何を造る? 夢をふくらませ、描いてみよう。</p> <p>絵をつなぎ合わせると、川・町・レジャー施設などが建設され、町ができる。するとゴミ(汚染)が発生する。多くのゴミ(おはじき)がなぜ発生するのか、考えよう。</p> <p>ゴミは、川の上流から下流に流れ、海に流れ、世界の海へと流れ漂う。</p> <p>地球上の海に、ゴミ(おはじき)があふれていることを理解する。(自然浄化力の限界)。</p> <p>⑤ 「ふりかえり・まとめ」</p> <p>川は水とともに汚れ・ゴミを集めて海に流れていること、学ぶ(海ゴミの原因の1つ)</p> <p>ゴミを捨てないことが、町・川・海を綺麗にする。地球で一番面積の大きい海がきれいになれば、私たちは地域で快適に過ごせることを知り、理解しよう。</p> <p>SDGsとの関係を説明し、私たちが出来る行動を考えてみる</p>	 <p>漂着ペットボトルの国別グラフ</p>  <p>ハワイ島カミロビーチ</p> 

【プログラムのアピールポイント】

- ・ストーリー仕立て「地球の水→利用可能な水→不公平な水→川は水と共にゴミも海に運ぶ→ふりかえり」の流れにより、体験してもらいながら、理解を深めることができる。
- ・体験形式で実施し、振り返りを入れることにより、楽しんで記憶に残る講座となる。
- ・生徒(学年)のレベルに合わせ、目的と時間により、説明内容を変化させることが可能である。
- ・参考:プロジェクト WET では、利用可能なアクティビティは多種・多様であるため、「水と病気」「水を感じる」「雨音を作る」など体験講座が要望により対応可能である。

【授業を受けた先生の声】

- ・「初対面でも話しやすい状況を作ることができた」。「水の循環に理解が深まった」。「最後は川がつながり下流ではゴミが多くなるというストーリーが子どもにも分かりやすい」